渡島地方本部ニュース

発 行
自治労渡島地方本部
執行委員長　川村　哲也
〒041-0806
函館市美原４-6-16
TEL 0138-34-2357
FAX 0138-34-2358

今こそ民意を結集するとき・・・

7月11日（金）函館国際ホテルにて「やめるべ、大間原発!さよなら原発北海道」の講演会が行われた。

当日は、関係団体・一般市民等含め約400名の来場者で、会場は溢れんばかりとなり、本講演会そして、脱原発への住民の関心の高さが表れていた。

冒頭、本講演会の主催者である北海道平和運動フォーラム中村代表からあいさつを受けた後に講演が行われた。

講演会の講師には「さよなら原発」1000万人署名呼びかけ人でもある、ルポライターの鎌田慧氏を招き、「無用の長物　大間原発」と題し講演が行われた。

現在、日本の総電力量は十分に足りており、大間原発を造る意味が全くない。万が一事故が起きた場合、その影響と被害は想像を絶するものとなることが予測されているにもかかわらず、国は3.11のフクシマの原発事故の教訓を全く無視し、計画を進めてようとしている。自治体の首長では初めて、国と電源開発を相手どり大間原発建設中止の訴訟を起こした函館市の行為は「自治体の怒りの激しさ」を感じると訴えた。

脱原発の運動を世論に広げ原発ゼロ社会に向け、ともにがんばることを全体で確認し、講演を終えた。

翌日の7月12日（土）、対岸に青森県大間町を眺めることができる函館市大森公園で「やめるべ、大間原発!7. 12さよなら原発北海道集会」が開催され、全道からそして、対岸の青森県からも仲間が加わり、約1,000名もの参加者が会場に結集した。

集会に先立ち昨日に続き、鎌田慧氏、原発ゼロの会（前衆議議員）顧問逢坂誠二氏、青森県平和推進労働組合会議　江良議長から、大間原発は、使用済み核燃料のプルトニウムとウランを混ぜたMOX燃料を使う世界初の原発である。破綻している核燃料サイクルの中、増え続ける使用済みプルトニウムを燃料とする大間原発の建設稼働を認めれば、既存の原発の再稼働に根拠を与えることになる。

今こそ、民意を結集して大間原発建設に反対、原発ゼロの運動を推進し、世論喚起を高める必要があるとそれぞれ力強いあいさつがあった。

その後、集会アピール（案）を全体で確認したのち、函館駅前まで大間原発建設反対、脱原発のシュプレヒコールを挙げながらデモ行進を行った。シュプレヒコールの声は、函館中心街に向かって響いていた。

2日間に渡り、講演会・集会に参加していただいた各単組・総支部・全道の仲間のみなさん、大変おつかれさまでした。

ありがとうございました。

無用の長物　大間原発！